

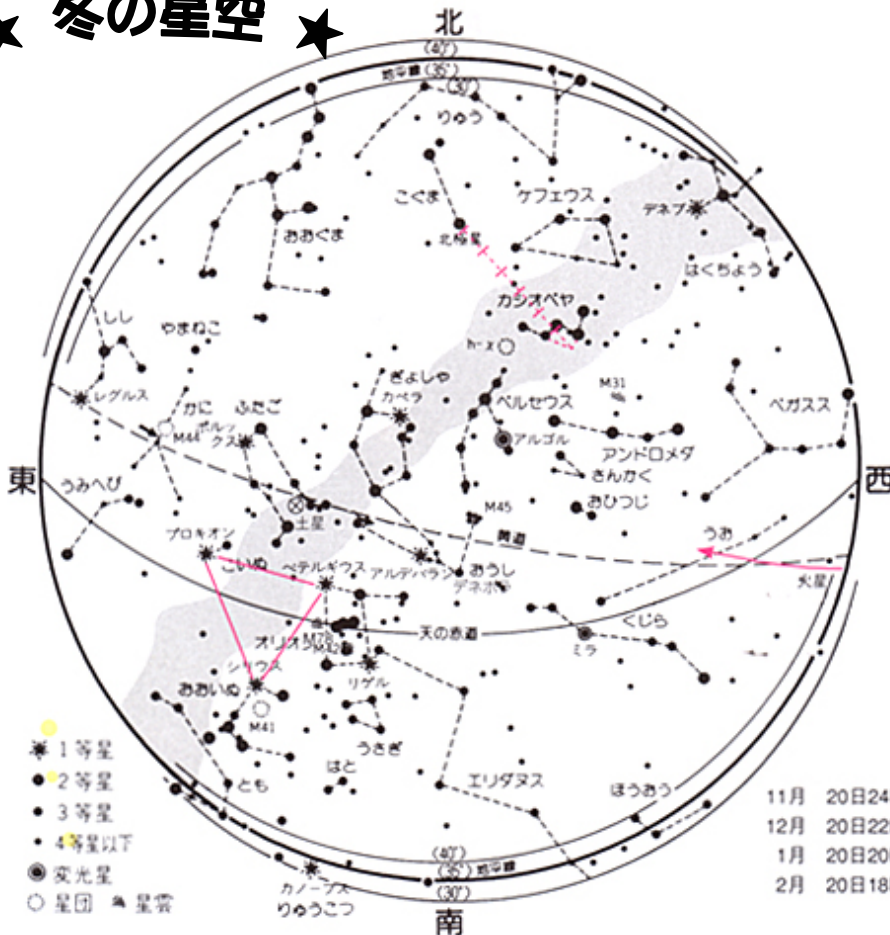
★ ラインナップ ★

冬の星空 & アルゴ座

ピラミッド・ミステリー！？

プラネタリウム冬番組 “赤道直下の星紀行 -チャールズ・ダーウィンの見たガラパゴス-”

★ 冬の星空 ★



色づいた木々に落葉が目立ちはじめると、いよいよ冬の到来です。冬の星空は一年中で最も美しいといわれています。澄んだ空気の中で輝くたくさんの明るい星々、巨人の狩人オリオン、星団・星雲など見とれてしまうほどの星空を眺めてみましょう。もちろん防寒対策は忘れずに！

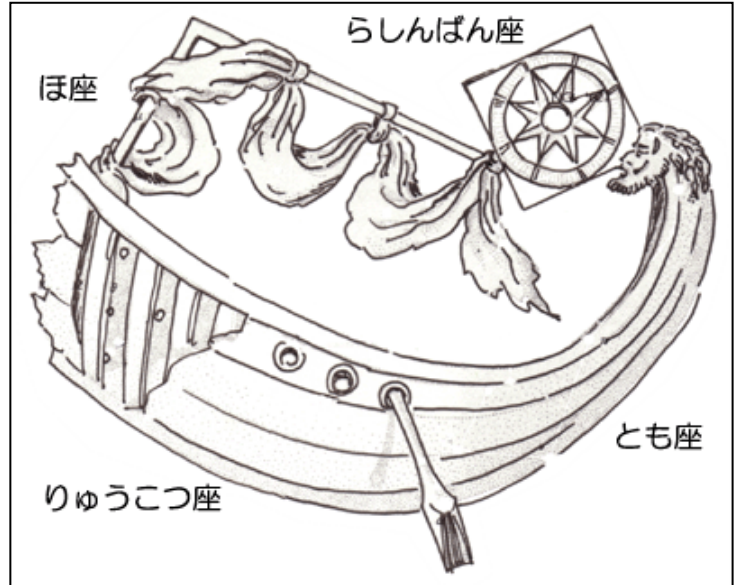
まず南の空に目を向けると、他のどの星よりも明るい星が見つかります。-1.5等の輝きはギリシャ語で“焼きこがすもの”という意味をもつ「おいぬ座」の《シリウス》です。シリウスから左上に目をやると、「こいぬ座」の1等星《プロキオン》が見つかります。もう一つ、一度見たら忘

れられない星の並びがあります。明るい4つの星がつくる四角形のなかに3つの星が等間隔に並んだ星座、「オリオン座」です。四角形の左上が赤い輝きの1等星《ベテルギウス》、右上は2等星《ベラトリックス》、右下は青い輝きの1等星《リゲル》、左下は2等星《サイフ》です。四角形の中に並んだ3つの星は『三つ星』と呼ばれ、その下には縦一列に並んだ『小三つ星』があります。小三つ星の真ん中には、有名な『オリオン大星雲：M42』があり、小型の望遠鏡で楽しめる天体です。シリウス、プロキオン、ベテルギウス、この3つの1等星を結んでできる大きな三角形を『冬の大三角』といいます。

さてこの冬、注目の星座は？ というと...「ふたご座」です。オリオン座から北東に広がるふたご座には、1等星《ポルクス》と2等星《カストル》の明るい星が仲良く並んでいます。その中にもう一つ、-0等ほどの“土星”が入り込んでいます。今は大きく開いた状態の環が楽しめ、これからが観望のチャンスです。そして、三大流星群の一つとして知られている“ふたご座流星群”が、12月14日深夜頃にピークを迎えます。派手さはないけど堅実な流星群として知られ、しかも放射点がカストルの近くなので一晩中見えることが特徴です。条件があまり良くない今回は、日没から月出前までがチャンスです。

解体された船 ~ アルゴ座 ~

全天 88 星座には、空いっぱい広がる大きな星座があります。なかでも「うみへび座」は東西に長く、現在最大の星座です。でも、もっと大きな星座があったのを知っていますか？それが『アルゴ座』です。しかしあまりにも大きすぎたため、1752 年フランスの天文学者ラカイユによって、現在の「りゅうこつ座」、「とも座」、「ほ座」、「らしんばん座」の 4 つに分割されてしまいました。もし、今もアルゴ座がそのまま残っていたらダントツで全天一の大星座となります。



さて、アルゴ座にはどんな神話が隠されているのでしょうか？

イオルコス国の王子イアソンは王位の座を取り戻すため、コルキスという国にある金の毛をもつ羊（おひつじ座）の羊皮を奪いに向かいます。そのとき使った巨大な船が“アルゴ号”。この航海には、神話でおなじみの英雄たちが集まりました。琴の名手オルフェウス（こと座）、英雄ヘルクレス（ヘルクレス座）、カストルとポルックスの兄弟（ふたご座）などです。こんな豪華なメンバーとともに始まった冒険の旅は危険の連続でしたが、英雄たちの活躍で無事凱旋しました。そして星座となったアルゴ号は老朽化にともない（？）船体（りゅうこつ座）、船尾（とも座）、帆（ほ座）、羅針盤（らしんばん座）という船の部品に解体されてしまったのです。

最後に見所を紹介しましょう。といっても残念ながら、日本ではほとんどが地平線に沈んでしまっている南天の星座です。それでも諦めずにおおいぬ座が南中する頃、南空の地平線あたりを見てみると...りゅうこつ座の 1 等星《カノープス》が見つかります。条件（場所、天気など）が揃わないとめぐり逢えないこの星は、縁起の良い星として知られています。この冬、カノープスを見てくださいませんか？

★ ピラミッド・ミステリー!? ★

誰もが知っているエジプトのピラミッド！でも、どうやって作ったの？ なんのために作ったの...？ 次々わきあがる多くの謎のほとんどは未だ解明されていません。調べだしたらとまらない、そんなピラミッドの謎を、今回ちょっとだけご紹介します！

ピラミッドは王の墓だったのか？

ピラミッドといえば、大きな石を積み重ねて作った四角すいのこと。四角すいとはいっても、その形や大きさはさまざまです。けれど、その精巧でかつ高度な技術は、誰もが感動してしまうほど、スゴイもの。すでに発見されているものだけで 80 個以上、これから発見されるかもしれないものも含めると 150 個以上はあるだろうといわれています。

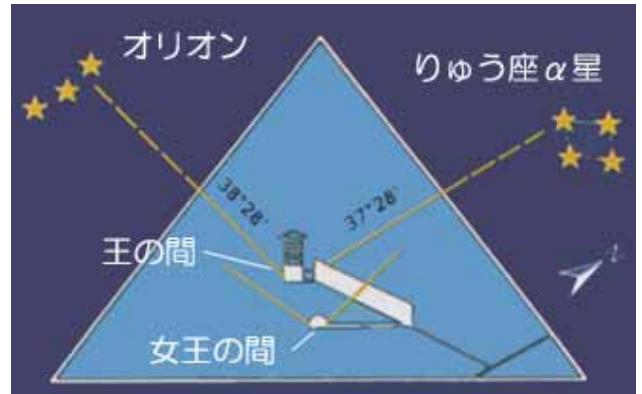


カイロから車で 30 分、ギザの大ピラミッド登場！

このピラミッドが作られた理由のナンバー1に挙げられるのは『王の墓』という説。でも実は今まで発見されたピラミッドからは王のミイラや遺品、財宝はひとつも発見されていないんです。財宝とともに盗まれてしまったとか、いろいろな説はあるものの、真実は未だ謎のまま…。でも最近は、「ピラミッドは王の墓ではない」という説が有力のようです。

ピラミッドは天文台だった！？

さてピラミッドの中でも特に有名なのが、カイロから車で30分ほどのギザ地区にある3大ピラミッドです。最も古く、紀元前2500年ごろに作られたといわれるこの3つのピラミッドは、大きい順にクフ王、その息子のカフラー王、さらにその息子のメンカウラー王（エジプト古王国時代の第四王朝（BC2613～BC2498）のファラオ）のものと考えられています。そしてカフラー王のピラミッドの前には、顔は人、身体は獅子で有名なスフィンクスが真東を向いて座っています。



クフ王のピラミッド中央からのびるシャフト。その延長には星が輝いていた！？

クフ王のピラミッドといえば、世界最大のピラミッド。その高さは約147m、各底辺の長さは約230mとほぼ等しく、しかもどの辺も正確に東西南北を向いています。1m四方の石レンガを約230万個も積み重ねて作ったとは思えないほどの精巧さです。ピラミッドの中央には、『王の間』『女王の間』と呼ばれる部屋も発見されていますが、そこからもクフ王の遺品と見られるものは何も発見されていません。

さて、クフ王のピラミッドの中には『シャフト』と呼ばれる4本の通気孔のようなものがあります。シャフトは、「王の間」と『女王の間』からピラミッドの外へ向かって、南北に斜めに2本ずつ伸びています。一見、なんの変哲もない通気孔のように思えますが、斜めにこんな穴をあけるのはかなり難しい技術が必要としたため、いったいなぜ、わざわざこんな穴をあけたんだろう？と不思議に思われてきました。未だに真相はわからないこのシャフト、でもいろいろ調べると、おもしろいことがわかりました。

4本のシャフトのうち2本は北の空へ、2本は南の空へ“完璧”に向いています。ではその延長上にはなにかあるのか？...ということでピラミッド建設当時、紀元前2500年の頃の空を再現し当てはめてみると、その先には、なんと4つの星（こぐま座のベータ星、おおいぬ座のアルファ星・シリウス、りゅう座のアルファ星（当時の北極星）、オリオン座の3つ星のひとつアルニタク）がぴったり当てはまることがわかりました！これらはどれも古代エジプトでは特別な意味を持つ星だったといわれています。さて...この意味するところはいったい...？

真相はいかに？ 『オリオン・ミステリー』

さらにおもしろいことに、ピラミッドの位置関係が惑星や星の位置を表している、という説もあります。なかでも有名なのが、なんとギザの3大ピラミッドの位置が、オリオン座



3大ピラミッドとオリオンの三つ星の位置関係。真実は...！？

の三つ星と同じ位置に並んでいるという説。しかもすぐ横を流れるナイル川を天の川に見立てると、なんと紀元前 10500 年ごろの星空とぴったり一致するとか。さらにその春分の日々の夜明けには、真東を向いて座っているスフィンクスの正面から、しし座が昇ってくるんです...。(うーむ、なんという偶然!?).....ただ紀元前 10500 年前という年代がどんな意味を持つのかは不明で(そもそもこの頃はまだ石器時代で、人は定住していなかったらしい)、ほかの多くのピラミッドの位置関係ともなんの関連も見られないなど、根拠となる証拠はなにもみつかっていないので、ホントのところは定かではありません...



カフラー王のピラミッド前に座るスフィンクス

最後に、スフィンクスにまつわるこんな話をご存知でしょうか？

「.....王の墓・ピラミッドを守るスフィンクスは、そこへ近づこうとする人々をみつけるとこんな質問を出しました。「朝は4本足、昼は2本足、夜は3本足...この正体は?」わからなかった人々はみな、スフィンクスに殺されてしまったそうです。.....」さてこの答、あなたはわかりますか? (答は最後)

2003/11/22(土)から冬番組を投映中!

赤道直下の星紀行

-チャールズ・ダーウィンの見たガラパゴス-

突然、1835年のガラパゴス諸島へタイムスリップした少年マモルは、そこでダーウィンに出会います...

ダーウィンの進化論で知られるガラパゴス諸島。番組では、高名な写真家が撮影したガラパゴスに生きるちょっと変わった生物たちの映像や南半球から見た満天の星空をご紹介します! ふだんとはちょっと違う冬の星空を存分に楽しんでくださいね!

投映時間 約45分(冬の星空15分+冬番組約30分)



< 編集後記 >

ほぼ毎年行ってた京都の紅葉、今秋は博物館の紅葉だけ。冬の京都もまた格別!

京都のお勧め情報求ム!! tomo

砂漠キャンプで初めて星明りが目に染みる...という経験をしました。こんなすごい体験をしてしまうと、ますます冒険心があおられちゃう私。また行ってきます、(来年!?) Yumi

この博物館通信は、岡山天文博物館が作製しています。次回 春号は、3月発行予定です。

岡山天文博物館 浅口郡鴨方町本庄 3037-5 TEL・FAX 0865(44)2465 休館日:月曜・祝日の翌日
博物館ホームページ <http://www.rweb.ne.jp/astro/index.html>

クイズの答: 人間 (4本足は赤ちゃん、2本足は若者、そして3本足は杖をついた老人でした。人間の一生を1日におきかえてみてね)